



最近の社会情勢から考える 子どもの諸課題

～ I. 子どもを理解する視点～

和歌山信愛大学 わかやま子ども学総合研究センター長

桑原 義登

桑原 義登（くわはら よしと）：和歌山県有田市在住

1970年～2002年：和歌山県職員、2002年～2015年：和歌山信愛女子短期大学助教授、相愛大学教授・同名誉教授を経て、2019年4月から和歌山信愛大学教育学部子ども教育学科教授。

和歌山県臨床心理士会会長、日本臨床心理士会代議員、日本心理臨床学会代議員、日本子どもの虐待防止学会代議員等を歴任。和歌山県教育委員会委員、和歌山県社会福祉審議会委員等、NPO法人和歌山子どもの虐待防止協会会長、NPO法人子どもセンターるーも副理事長等。

研究業績：「被虐待児童の児童養護施設等での処遇改善に関する調査研究」（2012-2014文部科学省科学研究費助成）等

はじめに

近年、社会情勢の変化の中で児童虐待・いじめ・不登校などの子どもに関する課題は大きな社会的な問題なってきました。このような課題の背景には貧困、家庭内の不和、発達障害、学力等々との関連が報告されており、従って、対応に当たっては子どもを中心に据えながらも、多様な角度からの包括的なアプローチが必要になってきています。

和歌山信愛大学では大学新設にあたり、和歌山県と和歌山市などとの連携協定で「学校などの教育現場や福祉現場の課題について相談に応じて研究する役割を果たして欲しい。」という要請がありました。そこで、本学の建学の精神に基づき、保育士、幼稚園教諭及び小学校教諭を養成する教育学部子ども教育学科の専門性を生かし

た「わかやま子ども学総合研究センター」を立ち上げているところです。

子ども学とは小林登先生の「子どもは『育つ力』をもつ生物的存在として誕生し、親、地域、学校の人々などの『育てる力』との相互作用によって成長していく」という考え方から出発しています。わかやま子ども学総合研究センターでは、最近の子どもに関わる諸課題について、子どもを中心に据えた研究と実践活動を幅広く行う予定です。

和歌山県の子どもの関わる現場での諸課題について、本学の教員、特別研究会員としての現場の先生方及び学生も交えて地域に開かれた研究会の開催や電子ジャーナルなどにより研究報告書を出していきたいと考えています。関心のある現場の先生方のご参加を歓迎し

ます。

わかやま子ども学総合研究センター発足を機会に「最近の社会情勢から考える子どもの諸課題」について、順次項目を分けて述べてさせていただきます。初回は私自身の体験を通して学んだ「I. 子どもを理解する視点」について述べさせていただきます。

1. 障害や課題となる行動だけにとられない視点

私は主に子どもの臨床心理学を専門としていますが、このような仕事に就きたいと考えるきっかけは、前巻で述べた学生時代に視覚障害児施設に下宿したことから始まります。

そこで初めて障害児と接したわけですが、眼球突出と眼球振動がある子どもが迎えてくれたときには正直ショックを受け、強い違